

平成 27 年度第 2 回 広島県総合教育会議 主な意見【概要】

◇ 広島らしさ

- ✓ 県民あるいは子育てをしている人たちが大綱を見たときに、「広島らしさ」とは一体何か、他県とどこが違うのかと感ずるのではないかと思う。
- ✓ 格差を是正していくということや、様々な困難を抱える若者たちに対して、きちんと配慮していただいていることはとても大事な点で、こういうところに「広島らしさ」が、大綱としてのオリジナリティが現れていると思う。
- ✓ 広島県の独自性が出ていると思ったのは、「多様性」ということをすごく強調しており、しかも少し踏み込んだ形で強調していることはありがたく思う。

◇ 学び続ける

- ✓ 県民一人一人が、教育は子供だけではなくて、自分が学び続けることが大事だという認識を持てるようになれば、おのずと子供に対する教育観というのも変わってくると思うし、「主体的な学び」の大切さが、字面ではなく、自分の腑に落ちた形で分かってくると思う。この点を、全体をつなげる要素として、強調してもらいたい。
- ✓ 県民一人一人が生涯にわたって学び続けられる環境と機会という言葉は、是非入れていただきたい。

◇ 乳幼児期の教育

- ✓ 幼・小の円滑な接続は、幼児期までに子供たちが既に持っている経験や力・知識などを積極的に子供自身が活かすことによって、小学校教育に円滑に接続していくという考え方であり、そのニュアンスがうまく出ているのかどうかと感じた。
- ✓ 乳幼児期に一番子供に接する機会が多い親に関しての記述が少ないと思う。
- ✓ 親あるいは保護者、子供の教育に直接的に関わる者に対する支援、あるいはサポートなどが少し見える形にしてはどうかと思う。

◇ 高等学校の在り方

- ✓ 高校をどのように設計していくかは、県の大綱として非常に重要なポイントであり、その高校の中で多様な個性や能力というものを、垂直的な序列ではない形で、どう確保していくかが、県の責任として非常に重要になってくると思う。

◇ 教職員

- ✓ 高等学校から大学、そして教員養成・採用ということについて、もう一度考える、あるいは、県と私立大学、県と国立大学で、この地における教師をどう育てるかということについて検討するというのも、大綱の中に位置付けてはどうか。
- ✓ 項目 7 で、「教職員一人一人の持っている力を最大限に発揮できる環境の整備に努めていく」について、もう少し具体的に考え、記述してはどうか。

◇ 記載方法

- ✓ 「オール広島県」を進めていくということであるならば、特に分かりやすさ、明快さも必要だと思う。項目が並列に並ぶのではなく、例えば、構造化する、あるいは項目と項目との関係が見える形になると良いのではないかと思う。
- ✓ それぞれの項目について、もう少し具体的にどういうことをするのがイメージできる書きぶりにすれば、さらに良くなると思う。
- ✓ 比較的長期的な視野での、理念的な記述が多い。中長期的なことを書いてあるものと、比較的短期的な中で書いてあるものを少し意識して、それぞれの文言や方策を整理すると、さらに分かりやすくなると思う。